

4. 傾聴ボランティアが直面する問題と本研究の意義

ホールファミリーケア協会単独の養成講座の開催だけでなく、行政関係の講座、講習会、研究会の一環として、ホールファミリーケア協会と共同で傾聴ボランティアの養成講座を開催している自治体も多い。しかし、養成されたボランティアが地域で有効に活用されていない現実がある。それは、ボランティアの養成のみに目的が設定されており、それを生かすか否かがボランティアの個人的努力にゆだねられている、つまり、活用という視点からのシステム作りがなされていないことに起因している。

閉じこもりの「把握」「事前評価」「介入」という一連の事業展開を、自治体や社会福祉協議会と共同で、地域の既存の資源を最大限活用しながら行っていく。その流れの中で傾聴ボランティアの有効性を評価するとともに、その活用の方法論をも検討しようとすることに本研究の意義はある。単に、傾聴ボランティアの有効性のみを評価するという研究であれば、既存の地域のシステムとは無関係に、いくつかの機関の協力をえて閉じこもり高齢者を抽出し、それに対して傾聴ボランティアを派遣するという実験的な枠組みで十分である。しかし、それでは、ボランティアという有効な資源を活用するためのアイデアの提案にはならない。

養成から活用まで一貫したシステムの中に傾聴ボランティアを位置づけ、活用を図るという点で参考になるのが、千葉県船橋市での取り組みである。船橋市福祉サービス公社が、ホールファミリーケア協会と連携して傾聴ボランティアを養成するとともに、以下の4つの対象に対して組織的にボランティアの派遣を行っている。①公社の派遣するホームヘルパーと同行する、②市の地域保健事業と連携し、毎年行われている単独・夫婦のみの高齢者世帯調査の中で派遣した方がよいと思われるケース、③市内の高齢者施設、④広く市民に呼びかけ、その呼びかけに応じたケース。本研究においては、船橋市の関係者からのヒアリングを行い、船橋市の②の活動形態を1つのモデルとして、我孫子市におけるシステムづくりを行った。

5. 傾聴ボランティアの担い手の参加動機

これまでの研究では、ボランティアとして活動することの満足度や心身の健康に与える効果については、ボランティアの種類やボランティアへの参加動機や期待に関係なく、それらをまとめて一括して分析してきた。しかし、ボランティアの特性によって、その効果にも違いがあると思われる。閉じこもりには、生きがいや自尊感情の喪失などの心理的な要因が大きく関係しており、それらを回復していくには粘り強い関わりが必要となる。そのため、傾聴ボランティアとして対象者に継続的にかかわることは、担い手に対して利益だけでなく、ストレスともなる。このようなストレスを乗り越えてこそ、自己実現や達成感を獲得できる。参加の動機や理由は、特にストレスフルな状況にあるときに、それを乗り越え、対処する方法に大きな違いを生む。以上のような視点から、本研究では、参加の動機との関連でアウトカム指標への効果の違いを検討する予定である。

ベースライン調査で明らかとなったボランティアの担い手の参加理由としては、「社会

とのつながり」および「人の役に立ちたい」という理由がそれぞれ70%程度占めていた(表3-1)。そして、それぞれの相関は低く、志向性のかなり異なる人たちで構成されていることがわかった。次年度では、パネル調査のデータを利用し、この志向性がアウトカムに与える効果を検討してみたい。このことによって、ボランティアの担い手が活動からよりよい経験を獲得するためのきめの細かな支援が可能となるであろう。

表 3-1 傾聴ボランティアに参加した理由（複数回答）（%）

理由	
社会とのつながりを維持したり、広げるため	76.7
人の役に立ちたいから	66.7
生きがいのため	33.3
人と話すのが好きだから	21.7
健康によいから	6.7
その他	13.3
n	60

さらに、担い手や受け手へのボランティアの効果を検証する際に参考にするため、傾聴ボランティアの意義をどのように考えているかについて把握した。表3-2に結果がまとめられている。全体的に肯定的な評価が多く、項目による差が大きいではないが、「非常に思う」に着目した場合、その割合は項目によってかなり異なる。すなわち、「非常に思う」という回答が多かったのは、「物事に対する新しい見方ができる」(58.3%)、「閉じこもりがちな高齢者に効果」(53.3%)、「自分にとって重要」(51.6%)というように、ボランティア自身への効果を指摘する割合が高かった。

表 3-2 傾聴ボランティアの意義（%） (n=60)

意義					
	非常に 思う	やや 思う	あまり 思わない	まったく 思わない	無回答
傾聴ボランティアは自分にとって重要だと思う	51.6	41.7	0.0	0.0	6.7
傾聴ボランティア活動によって、自分自身の重要性を感じることができると思う	18.3	66.7	8.3	0.0	6.7
傾聴ボランティア活動によって、物事に対する新しい見方ができるようになると思う	58.3	36.7	0.0	0.0	5.0
傾聴ボランティア活動は、自分の仕事の選択肢を広げてくれると思う	28.3	48.4	8.3	5.0	10.0
傾聴ボランティア活動によって自分は人に必要とされていると感じられると思う	26.7	53.3	8.3	0.0	11.7
傾聴ボランティア活動によって、地域社会が活性化すると思う	28.3	51.7	13.3	0.0	6.7
傾聴ボランティア活動は、自分の能力を生かせる活動だと思う	28.3	53.3	11.7	1.7	5.0
傾聴ボランティア活動を通して、「地域のために活動する」ことについて、関心を分かち合うことができると思う	36.7	45.0	10.0	0.0	8.3
傾聴ボランティア活動は、閉じこもりがちな高齢者に効果があると思う	53.3	40.0	1.7	0.0	5.0
傾聴ボランティア活動によって、地域社会にもっと関心を向けることができると思う	38.3	50.0	5.0	0.0	6.7
傾聴ボランティア活動によって、地域社会のことがもっとわかると思う	38.3	48.3	6.7	1.7	5.0

6. 要約

本章では、本研究の課題にかかわる文献のレビューと本研究の意義、さらに傾聴ボランティアに参加した人の特性について明らかにした。その結果、次のような点が明らかとなった。

1) ボランティアの受け手にとっての利益や影響に関する研究については、特に保健福祉領域で活動するボランティアの場合、受け手が病気や障害、あるいは周囲のサポートが必要な状態にあることから重要な課題であるが、ほとんど研究が行われていない。その点で、本研究はボランティア研究の推進にとって重要な意義がある。

2) 加えて、有効性の評価だけでなく、自治体や社会福祉協議会と共同で、閉じこもりの「発見」「評価」「介入」という一連の事業の展開の流れの中で傾聴ボランティアを位置づけていることから、その活用の方法論をも提案できる。

3) 傾聴ボランティアの担い手の参加理由としては、「社会とのつながり」および「人の役に立ちたい」という理由がそれぞれ70%程度占めている。そして、それぞれの相関は低く、志向性のかなり異なる人たちで構成されていることがわかった。

注)

1) 断面調査を含めたボランティア活動の心身の健康に与える効果については藤原ら(2005)がレビューを行っている。

2) この節の記述は、ホールファミリーケア協会編(2005)に基づいている。

文献

出村慎一・野田政弘・南雅樹・長澤吉則・多田信彦・松沢甚三郎(2001)。「在宅高齢者における生活満足度に関する要因」『日本公衆衛生雑誌』, 48巻5号, 356-366

ホールファミリーケア協会編(2004)『傾聴ボランティアのすすめ』, 三省堂。

藤原佳典・杉原陽子・新開省二(2005)。「ボランティア活動が高齢者の心身の健康に及ぼす影響: 地域保健福祉における高齢者ボランティアの意義」『日本公衆衛生雑誌』第52巻4号, 293-307。

Li, Y., Ferraro, K.F. (2005). Volunteering and depression in later life: social benefit or selection processes? *Journal of Health and Social Behavior*, 46(1), 68-84.

Moen, P., Dempster-McClain, D., Williams, R.W.Jr. (1992). Successful aging: A life course perspective on women's multiple roles and resilience. *American Journal of Sociology*, 97(6), 1612-1638.

Morrow-Howell, N., Hinterlong, J., Rozario, P.A., Tang, F. (2003). Effects of volunteering on the well-being of older adults. *Journal of Gerontology b: Psychological Sciences and Social Sciences*. 58(3), S137-45.

Morrow-Howell, N., Tang, F., Kim, J., Lee, M., Sherraden, M. (2005) Maximizing the productive engagement of older adults, M.L. Wykle, P.J. Whitehouse, D.L. Morris,

Successful aging through the life span: Intergenerational issues in health(pp.19-53). New York: Springer Publishing Company.

Musick, M. A., Herzog, A. R., House, J. S. (1999). Volunteering and mortality among older adults: findings from a national sample. *Journal of Gerontology b: Psychological Sciences and Social Sciences*, 54(3), S173-180.

Musick, M.A., Wilson, J. (2003). Volunteering and depression: the role of psychological and social resources in different age groups, *Social Science and Medicine*, 56(2), 259-269.

杉原陽子(2003). 『生涯現役』をめぐる疑問：向高齢期における実態と意義」杉澤秀博・柴田博編著『生涯現役の危機－平成不況下における中高年の心理』ワールドプランニング, 107-136.

Thoits, P. A., Hewitt, L.N. (2001). Volunteer work and well-being. *Journal of Health and Social Behavior*, 42(2), 115-131.

閉じこもり予防・支援についての研究班(2005). 『閉じこもり予防・支援マニュアル』

Van Willigen, M. (2000). Differential benefits of volunteering across the life course, *Journal of Gerontology a: Psychological Sciences and Social Sciences*. 55(5), S308-318.

おわりに

終章として、現在までの研究を踏まえ、介護予防事業に対する若干の提案を試みたい。

1. 住民の力を活用した介護予防事業の主体

本研究では、新しく、事業の目的で合意できることを前提に、①「発見」のための地域資源として民生委員の協力が得られること、②「専門家による査定」のための介護保険事業を展開していること、③「介入」の資源としてボランティアにかかわりがあること、という理由から、社会福祉協議会と連携・共同が密にできる地域をモデル事業の候補地として選定作業を行った。その結果、短期間ながら、我孫子市の社会福祉協議会と連携・共同が実現し、体制を整えることができた。つまり、推進主体として各自治体の社会福祉協議会が重要な位置・役割を占めているといえよう。

2. 介護予防ニーズの潜在化の可能性を防止する

地域支援事業を有効に機能させるには、まず、「対象者を把握する」、次に「サービスにアクセスさせる」ことが必要である。「対象者を把握する」ことについては、本研究では、把握の中心ルートである基本健診では半数未満しか把握されないことが明らかとなった。他方、主治医の協力を得ることで70%以上の特定高齢者の把握が可能であることが示唆された。特定高齢者の把握には、地域包括支援センターと地元の医療機関との緊密な連携が重要である。

3. 介護予防サービスメニューの拡大

「サービスへのアクセス」については、現在の通所形態中心のサービス提供では「運動器の機能向上」「栄養改善」あるいは「口腔機能の向上」についてもアクセスが十分に確保されないことが明らかとなった。すなわち、特定高齢者の中では、訪問形態でのサービス提供が望まれる「認知症予防・支援」と「うつ予防・支援」へのニーズが高かった。「運動器の機能向上」「栄養改善」あるいは「口腔機能の向上」のニーズについても、それらのニーズが単独で存在し、「認知症予防・支援」と「うつ予防・支援」「閉じこもり予防・支援」のニーズと重複していない人の割合は特定高齢者中10%程度に過ぎなかった。以上、通所形態のサービス提供では、特定高齢者が把握されても十分なサービスが提供されない可能性が高いことから、特に訪問系におけるサービスメニューの拡大が必要である。

4. モデル事業の成功のために必要なこと

1) 民生委員のアンテナをもっと拡大する

閉じこもり高齢者については、本研究では、「把握」を民生委員の協力をえて行うこと、「サービスへのアクセス」を傾聴ボランティアというサービスメニューで行うことを考えた。民生委員の利用した「把握」の可能性は、閉じこもり高齢者のうち10%未満であり、現時点での把握のためのルートとしてはそれほど有効とはいえないことがわかっ

た。民生委員のルートによる把握率を高めていくには、民生委員がこれまで接触をもってきた高齢者の範囲をより一層広げ、様々なネットワークを利用して高齢者の情報を入手し、掘り起こしていく作業が不可欠である。

2) 傾聴ボランティアへの認知を広める

閉じこもり高齢者のうち傾聴ボランティアの利用意向のあるものは15%程度であり、「アクセス」のための条件である高齢者の利用意向は必ずしも高くなかった。その理由としては、傾聴ボランティアのことを知らないということも利用意向が低い原因の1つであると考えられた。傾聴ボランティアのサービスとして認知度が低いことから、モデル事業のなかでサービスを調整するケアマネジャーが積極的にその必要性を紹介する必要がある。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

なし

IV. 研究成果の刊行物・別刷

なし

V. 資料

1. 調査票

(地域住民に対するベースライン調査)

(傾聴ボランティアの担い手に対するベースライン調査)

介護予防に関する実態調査

平成18年2月

我孫子市

我孫子市社会福祉協議会

桜美林大学・加齢発達研究所

このアンケートには、宛名のご本人がお答えください。宛名のご本人がアンケートにご記入できない場合は、他の方に代筆をお願いします。宛名のご本人が回答できない場合には、わかる範囲でかまいませんので、他の方がお答えください。 2月28日(火)までにご返送ください。

以下の問いについて、あてまはる番号や記号に○をつけてください。

要介護状態になることを予防する介護予防事業についてのお考えをお伺いします。

問1 この4月から、介護保険法が改正されます。このことに関する情報をどの程度ご存知ですか。

(1)～(3)のすべての項目について「1 知っている」「2 知らない」でお答えください。

(1) 市が行っている健診などを利用して、要介護になる可能性の高い人を把握する。

1 知っている 2 知らない

(2) 要介護になる可能性の高い人を対象に、介護状態にならないための事業を実施する。

1 知っている 2 知らない

(3) 閉じこもりも要介護状態になりやすい要因の1つとして取り上げられ、対策が行われる。

1 知っている 2 知らない

問2 この4月からの改正では、要介護状態とならないための事業として、次のような介護予防事業を考えています。あなたは、それぞれについて参加したいと思うものはありますか。(1)～(3)のすべての項目についてお答えください。

(1) 身体機能を向上させるためのメニューのうちでは、次のどれに参加したいですか。(○は1つ)

- 1 筋力を向上させるための訓練 (トレーニング機器を利用します)
- 2 プールを利用した歩行訓練
- 3 自宅で気軽にできる体操
- 4 公園などに整備する運動用遊具を利用した訓練
- 5 どれにも参加したくない/参加できない

2 ページ目へ
お進みください

(2) 栄養の改善を図るためのメニューのうちでは、次のどれに参加したいですか。(○は1つ)

- 1 日頃の食事内容について、栄養士による相談
- 2 高齢者でもできる料理教室
- 3 友達や知人とともにおこなう会食会
- 4 どれにも参加したくない／参加できない

(3) 歯や口(口腔内)の機能の向上を目的としたメニューのうちでは、次のどれに参加したいですか。(○は1つ)

- 1 入れ歯(義歯)などの手入れや洗浄についての講習
- 2 歯を定期的に健診する検査(半年から1年に1回)
- 3 食事が楽しくできるための「あご」の機能訓練
- 4 どれにも参加したくない／参加できない

次に、あなたの健康状態についてうかがいます。

問3 全般的にいて、あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

- 1 よい 2 まあよい 3 ふつう 4 あまりよくない 5 よくない

問4 あなたは現在、以下のような病気やケガで、病院や診療所に通っていらっしゃいますか。あてはまる番号すべてに○をしてください。往診、薬だけ出してもらっている場合も含まれます。

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 高血圧 | 6 腰痛・関節炎 |
| 2 脳卒中など脳血管疾患 | 7 悪性新生物(ガン) |
| 3 心臓病(狭心症・心筋梗塞) | 8 パーキンソン病等の神経難病 |
| 4 呼吸器系の病気 | 9 その他() |
| 5 骨折・外傷 | 10 病気やケガはあるが、病院には通っていない |
| | 11 病気やケガはない |

問5 あなたが通っている病院や診療所は、我孫子市内にありますか。歯科は除きます。(○は1つ)

- 1 市内にある 2 市外にある 3 市外と市内の両方 4 通っていない

3 ページ目へ
お進みください

問6 以下の項目は、要介護状態になる可能性があるか否かを判断する重要な項目です。(1)～(25)のすべての項目について、「1 はい」「2 いいえ」でお答えください。判断に迷う場合には、いずれか近い方を選んでください。

- (1) バスや電車で1人で外出していますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (2) 日用品の買物をしていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (3) 預貯金の出し入れをしていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (4) 友人の家を訪ねていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (5) 家族や友人の相談にのっていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (6) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (7) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか… 1 はい…………… 2 いいえ
- (8) 15分位続けて歩いていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (9) この1年間に転んだことがありますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (10) 転倒に対する不安は大きいですか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (11) 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (12) 身長 _____ cm 体重 _____ kg
- (13) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (14) お茶や汁物等でむせることがありますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (15) 口の渇きが気になりますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (16) 週に1回以上は外出していますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (17) 昨年と比べて外出の回数は減っていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (18) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると
言われますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (19) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (20) 今日が何月何日かわからない時がありますか…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (21) (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (22) (ここ2週間)これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (23) (ここ2週間)以前は楽にできていたことが今では
おっくうに感じられる…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (24) (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない…………… 1 はい…………… 2 いいえ
- (25) (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする…………… 1 はい…………… 2 いいえ

4 ページ目へ
お進みください

問7 あなたの日常生活についておたずねします。次のことを他の人の手助けなしに行うことはできますか。普段していなくても、必要があればできるか否かでお答えください。(1)から(5)のすべての項目についてお答えください。

(1) 食事をする(○は1つ)

1	2	3	4
一人で普通にできる	何とか一人でできる	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要

(2) 着替えをする(○は1つ)

1	2	3	4
一人で普通にできる	何とか一人でできる	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要

(3) 入浴をする(○は1つ)

1	2	3	4
一人で普通にできる	何とか一人でできる	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要

(4) 排泄をする(○は1つ)

1	2	3	4
一人で普通にできる	何とか一人でできる	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要

(5) 歩行する(○は1つ)

1	2	3	4
一人で普通にできる	何とか一人でできる	一部手助けが必要	全面的に手助けが必要

次に、あなたの社会とのかかわりについてうかがいます。

問8 現在、あなたは町内会・自治会、ボランティア・市民活動団体、趣味や学習の会、高齢者クラブなどのグループや団体の会合や集まりに参加していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 1週間に2回以上 | 4 1ヶ月に1回くらい |
| 2 1週間に1回くらい | 5 この1ヶ月では参加していない |
| 3 1ヶ月に2、3回 | |

問9 あなたはご自宅で、日中のほとんどの時間、お一人になることがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 ほとんど毎日一人である | 4 月に1～2日くらい一人である |
| 2 週に3～5日くらい一人である | 5 ほとんど一人になることはない |
| 3 週に1～2日くらい一人である | |

問10 同居家族以外の別居のお子さんやご親戚についておたずねします。合計して何回くらい一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたり、電話で話しますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 1週間に2回以上 | 5 1ヶ月に1回より少ない |
| 2 1週間に1回くらい | 6 まったくない |
| 3 1ヶ月に2、3回 | 7 別居の子どもも親戚もない |
| 4 1ヶ月に1回くらい | |

5 ページ目へ
お進みください

問 11 友達やご近所の人たちとは、何回くらい一緒に出かけたり、お互いの家を訪ねたり、電話をしますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|-----------|---|-------------|
| 1 | 1週間に2回以上 | 4 | 1ヶ月に1回くらい |
| 2 | 1週間に1回くらい | 5 | 1ヶ月に1回より少ない |
| 3 | 1ヶ月に2、3回 | 6 | まったくない |

問 12 あなたのまわりの人たちは、あなたの話を聞いてくれたり、理解してくれますか。(1)～(4)のすべての項目についてお答えください。

(1)同居の家族の方たちは、あなたの話を聞いてくれたり、理解してくれますか。(○は1つ)

- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|----------|------------|------------|-------------|----------|----------|
| よく聞いてくれる | まあよく聞いてくれる | あまり聞いてくれない | まったく聞いてくれない | 心配事は話さない | 同居家族はいない |

(2)別居の子どもや親戚の方たちは、あなたの話を聞いてくれたり、理解してくれますか。(○は1つ)

- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|----------|------------|------------|-------------|----------|
| よく聞いてくれる | まあよく聞いてくれる | あまり聞いてくれない | まったく聞いてくれない | 心配事は話さない |

(3)友達やご近所の人たちは、あなたの話を聞いてくれたり、理解してくれますか。(○は1つ)

- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|----------|------------|------------|-------------|----------|
| よく聞いてくれる | まあよく聞いてくれる | あまり聞いてくれない | まったく聞いてくれない | 心配事は話さない |

(4)かかりつけの医師や保健師、ケアマネジャーなどの保健・医療・福祉の専門家は、あなたの話を聞いてくれたり、理解してくれますか。(○は1つ)

- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|----------|------------|------------|-------------|----------|-------------|
| よく聞いてくれる | まあよく聞いてくれる | あまり聞いてくれない | まったく聞いてくれない | 心配事は話さない | 専門家との関わりがない |

問 13 あなたのまわりの人たちは、外出や人とのつきあいをすすめてくれたり、誘ってくれますか。

(1)～(4)のすべての項目についてお答えください。

(1)同居の家族の方たちは、外出や人とのつきあいをすすめてくれたり、誘ってくれますか。(○は1つ)

- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|----------|-----------|------------|-------------|----------|----------|
| よく誘ってくれる | たまに誘ってくれる | あまり誘ってくれない | まったく誘ってくれない | 誘ってほしくない | 同居家族はいない |

(2)別居の子どもや親戚の方たちは、外出や人とのつきあいをすすめてくれたり、誘ってくれますか。

(○は1つ)

- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|----------|-----------|------------|-------------|----------|
| よく誘ってくれる | たまに誘ってくれる | あまり誘ってくれない | まったく誘ってくれない | 誘ってほしくない |

6 ページ目へ
お進みください

(3) 友達やご近所の人たちは、外出や人とのつきあいをすすめてくれたり、誘ってくれますか。(○は1つ)

1	2	3	4	5
よく	たまに	あまり	まったく	誘って
誘ってくれる	誘ってくれる	誘ってくれない	誘ってくれない	ほしくない

(4) かかりつけの医師や保健師、ケアマネジャーなどの保健・医療・福祉の専門家は、外出や人とのつきあいをすすめてくれたり、誘ってくれますか。(○は1つ)

1	2	3	4	5	6
よく	たまに	あまり	まったく	誘って	専門家との関
誘ってくれる	誘ってくれる	誘ってくれない	誘ってくれない	ほしくない	わりがない

問14 地区の民生委員をご存知ですか。訪問を受けたり、相談したことがありますか。(○は1つ)

- 1 この1年間に訪問を受けたり、相談したことがある
- 2 知っているが、この1年間では訪問を受けたり、相談したことはない
- 3 知らない

問15 あなた自身に最もあてはまると思うところに○をつけてください。(1)～(4)のすべてにお答えください。

(1) 人付き合いがよい方だと思う(○は1つ)

1	2	3	4	5
まったくそう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえば	まったく
	そう思う		そう思わない	そう思わない

(2) 人から個人的な話をもちかけられるのはわずらわしいものである(○は1つ)

1	2	3	4	5
まったくそう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえば	まったく
	そう思う		そう思わない	そう思わない

(3) 出会った人とは、できるだけ親密になろうと努力する(○は1つ)

1	2	3	4	5
まったくそう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえば	まったく
	そう思う		そう思わない	そう思わない

(4) 自分にとって人間関係はわずらわしいものである(○は1つ)

1	2	3	4	5
まったくそう思う	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえば	まったく
	そう思う		そう思わない	そう思わない

7ページ目へ
お進みください

次に各種サービスの利用についてうかがいます。

問16 あなたは、介護保険の認定を申請しようとしていますか。(○は1つ)

- 1 申請の必要がない 2 申請を考えているが、していない 3 申請中

問17 あなたは次の市の福祉サービスを利用していますか。(あてまはるものすべてに○)

- 1 配食サービス 2 電話訪問・お元気コール 3 いずれのサービスも利用していない

問18 あなたは、市で行っている健診(「生活習慣病健診」)を受けていますか。(○は1つ)

- 1 ほぼ毎年受けている 2 数年に1度受けている 3 ほとんど受けていない

問19 現在、社会福祉協議会では、家の中に閉じこもりがちな高齢者や、人との交流が少ない高齢者のお宅をボランティアが訪問し、お話を聴く「傾聴ボランティア」というサービスがあります。このような傾聴ボランティアを、あなたは利用してみたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 利用したい 2 利用したくない



付問 (問19で「2 利用したくない」と回答した方)なぜ利用したくないのですか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- 1 どのようなボランティアがくるのか不安である
2 他人に家の中をみられたくない
3 家族が反対する
4 そもそも人と会うのが好きでない
5 傾聴ボランティアのことがよくわからない
6 その他()

あなたのお気持ちや意識についてうかがいます。

問20 全体として、ご自分の生活にどれくらい満足していますか。(○は1つ)

- 1 非常に満足している 4 あまり満足していない
2 まあまあ満足している 5 まったく満足していない
3 どちらともいえない


問21 あなたは、孤立していると感じることがどのくらいありますか。(○は1つ)

- 1 ほとんどない 2 ときどきある 3 そう感じているときが多い

8 ページ目へ
お進みください

ご家族やご本人のことについてうかがいます。

問 22 現在、同居している(同じ敷地内に住んでいる)人は、あなたを含めて合計何人ですか。入院されている方も含めてお答えください。


人
1 1人(自分だけ) → 問 23 へ

↓

付問 あなたと同居している方は、どなたですか。あてはまる方をすべてお答えください。

- | | | |
|-------------|------------|---------------|
| 1 配偶者 | 5 娘の配偶者(婿) | 9 配偶者の母 |
| 2 息子 | 6 あなたの父 | 10 孫 |
| 3 娘 | 7 あなたの母 | 11 兄弟姉妹 |
| 4 息子の配偶者(嫁) | 8 配偶者の父 | (配偶者の兄弟姉妹も含む) |
| | | 12 その他() |

問 23 あなたは我孫子市にお住まいになって、何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1 1年未満 | 4 5～10年未満 | 7 30年以上 |
| 2 1～3年未満 | 5 10～20年未満 | |
| 3 3～5年未満 | 6 20～30年未満 | |

問 24 このアンケートにご記入いただいた方はどなたでしょうか。(○は1つ)

- 1 宛名のご本人が記入した
- 2 宛名の方から回答を聞いて、別の人が代筆した
- 3 宛名の方が回答できないので、別の人が回答した

最後に、介護予防についてのご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでもかまいませんので下欄にご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。同封の封筒にて、ご返送をお願いします。